

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	23
学校名	富山県立雄峰高等学校

学校の現状と課題	本校の特徴として、中学校時代の不登校経験生徒に加え、他の高校で人間関係や学校の動きに対応できず、転入学してくる生徒が多い。そうした生徒の多くは自己肯定感が低く、他との関係をうまく作れない。発達障害を含め、学習や学校生活に問題を抱える生徒も多い。
テーマ(特色)	自己肯定感を高めるための手立てとしての充実
設定した「テーマ」の達成状況	進路に関する知識や情報を与え、進路支援の機会を増やすため、講演会を実施した。 講演は2本立てとし、スクールカウンセラー(以下SC)による基調講演(全体会)と卒業生8名による講演(分科会)を実施した。 上級学校の学生や企業の若手社員など年齢の近い社会人から進路選択の体験や助言を通して、自己の将来について考えさせることができた。 ◎生徒の自主的な活動である玄関前清掃やあいさつ運動等を実施した。また、地域の行事等に積極的に参加し、協働する楽しさを他の参加者との交流を通して体験させることができた。
実施内容(具体的に記入する)	全体会では、好きなことを追求する生き方について、SCが基調講演を行った。SCは本校にて相談業務を担当しており、SCになるための方法の紹介も兼ねて、進路選択の助言を行った。講師の映像はビデオ会議機能を使って他の5クラスに中継した。 分科会では、生徒の興味関心に応じて、就職希望者と進学希望者ごと8班に分け、講演と質疑応答を行った。うち3講座が、コロナの影響によりビデオ会議による開催となった。講座ごとに生徒の案内係を設け、講師の誘導を行った。 就職希望者は、企業の若手社員から会社での働きぶりや仕事のやりがい等の助言を聞いた。 ・会社の業務内容 ・現在の会社を選んだ動機 ・仕事で大変なこと、楽しいこと ・職業選択にあたって注意すべきこと ・学校でもっと勉強しておけば良かったと思うこと 進学希望者は、上級学校の学生から学校での研究内容や学校生活等の助言を聞いた。 ・学校生活 ・志望校(進みたい進路)を選んだ動機 ・志望校(進みたい進路)が固まった時期 ・学校選択にあたって注意すべきこと ・学校でもっと勉強しておけば良かったと思うこと ◎地域をはじめとした学校外での活動(富山駅前清掃活動・花街道プロジェクト・地域文化祭参加、呉羽丘陵ウォーキング等)に積極的主体的に参加し、主催者や他の参加者との交流の充実を図った。 ◎校舎内の掲示板による、生徒会からの情報を毎月発信することができた。
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	・班分けでは、進路希望に応じて選択することで、関連する業界や学びの領域を理解し、選択の幅を広げることにつながった。 ・案内係では、来客対応の仕方を打ち合わせで確認し、ビジネスマナーの理解と向上につなげることができた。 ・上級学校の教員や社会人講師の講演以外に、年齢の近い講師の講演を聞くことで、共感的な理解を得ることができ、96%の生徒が参考になったと答えている。 ・講師への質問も具体的な内容で、他の生徒の質問をとおして、自分らしい生き方を実現するための課題を解決し乗り越えるヒントを得たと考えられる。 ・テレビ会議による講演を行い、テレビ会議運用のノウハウを得ることができ、コロナ禍における遠隔授業導入の経験を積むことができた。 ◎校外での活動で、地域の方々をはじめとした多くの方々との交流を通して、お互いの立場を認め合い尊重する態度を身に付けることができた。 ◎参加者としての立場から、「自分たちにはできることとできないこと」を自ら考え、行動することを通して、社会参画への意識向上につながる活動ができた。 ◎交流の様々な場面で、他者の多様な考えを聞いたり、自らの意見を効果的に伝えることを工夫したりすることで、コミュニケーション能力向上のための研鑽を積むことができた。
対象者(学年・人数など)	屋間単位制2年次 124名
実施実績	4月 ◎生徒会執行委員による年間計画の作成 壁新聞制作・発行
	5月 ◎生徒総会にて活動計画の提案 壁新聞制作・発行
	6月 ◎地域諸団体主催事業(あたごふれあい朝市)への参加 壁新聞制作・発行
	7月 ◎校外諸団体主催事業(富山駅前清掃、呉羽丘陵ウォーキング等)への参加 壁新聞制作・発行
	8月 ◎地域活動への協力(花街道プロジェクト参加)
	9月 ◎地域活動への協力()
	10月 ◎壁新聞制作・発行
	11月 ◎地域諸団体主催事業(愛宕地区文化祭、ふれあい朝市等)への参加 壁新聞制作・発行
	12月 講師依頼 ◎壁新聞制作・発行
	1月 屋単会議で説明 生徒の班分け 案内係の選出 ◎壁新聞制作・発行
	2月 年次との打ち合わせ 案内係との打ち合わせ 講師との打ち合わせ 講演会 ◎今年度の振り返りと次年度に向けての展望
	3月